

第 3851 図

たかねそもそも

*Festuca Takedana Ohwi*

本州中部の高山草原に稀に産する多年生草本で、全株殆んど無毛、高さ20-30cm許あり、短い匍枝があり、少数の稈を有し、葉は少数線形で長さ5-10cm許、巾4mm許あり、上面は粉白で細縦条がある。7-8月頃稈頂に狭卵形はやや点頭する疎な円錐花序を出し、その長さ4-7cm許、側枝は双生、平滑で、小穂は数少く、帯褐色で、光沢なく、長さ7mm許、数個の小花を具え、各小花の下に関節がある。内外の2穎は略同形で、長さ3-4mm許、披針形、鋭頭を呈し、3脈があり、背面に鋭稜がある。外稃は長さ6-7mm許、狭卵形鋭頭で3脈があり、芒はなく、背面は多少稜をなし、子房は先端に微毛がある。

ながのぎいね

*Oryza sativa L. var. longiseta Makino*

イネの変種で外稃の芒の長いものである。芒の長いものは時に小穂の6-8倍に達するものがある。他は通常のイネと同様である。イネの小穂の構造については異説がある。小穂の上方は多少太くなり、ここにカラー状の突起が2個あって、小穂を半ば取り囲むが、これが著しく退化した内外の2穎であり、通常内外の穎とするものは不稔の2個の小花に属する外稃であるとする。従って稔花は第3の小花ということになる。尚、イネの内稃は左右から偏圧され舟形を呈する点でホモノ科の他の属と著しく異った構造を有するので、内外2穎は2小花に属するものであるとの説もある。

うえまつそう

一名ときひさそう

*Sciaphila tosaensis Makino*  
(=*Parexuris tosaensis Nakai*  
et *F. Maek.*)

本州の中部地方以西、及び越後、四国、九州の林中腐葉の間に生ずる腐生の多年生植物である。地下茎は白色糸状で、茎は高さ5-10cm、単一であるが、時に分岐し、稍稜角がある。暗紫紅色を呈し、小鱗片葉がある。夏秋の候、短い総状花序を頂生して3-8花をつけ、上に雄花、下に雌花を開く。雄花は径5-7mm許、ホンゴウソウより著しく大形で、暗紫紅色を呈し、花被は6裂し裂片は狭披針形、先端は尾状。雌花には雄蕊3個があり、ホンゴウソウの如く雄蕊の附属体がなく、花糸は極めて短かく、葯は横裂する。雌花は径4-5mm、多数の心皮が集って球状になり、暗紫色を呈する。心皮は偏倒卵形で側方の中央下から棍棒状の花柱が出る。和名はこの植物を最初に土佐で発見した時久・植松両氏を記念したもの。

おおらみひろも

*Halophila euphlebia Makino*

本州中南部(紀伊、播磨)の暖海の浅い海底の砂土に生ずる常緑の多年生草本で、茎は白く円柱状で長く匍匐して疎に分枝し、節間は3-5cm許、各節から葉を双生し、又根を生ずる。葉は繊維長で帯紫色を呈する柄あり、直立し、楕円形乃至広楕円形、円頭、基部広楔形、全縁、半透明、浅緑色を呈し、質はウミヒルモより厚く、長さ2-2.5cm、巾1.0-1.5cm許、縁に沿うて走る脈と中肋との間を結ぶ側脈は数多く開出し、往々2岐する。葉柄の基部に、膜質、白色、透明質凹頭円形、長さ5mm許、1-3脈ある托葉があり、半ば茎を抱き或は幼茎の頂を完全に包む。雌雄同株、雄花は2葉間に短柄を立てて単生し、萼片3個、花弁なく、雄蕊3個あり。雌花は無梗、萼片3個及び長嘴ある子房を有し、柱頭は3岐する。ウミヒルモの南方型であるとの説がある。

こうがいも

*Vallisneria denseserrulata Makino*  
(=*V. spiralis L. var. denseserrulata Makino*)

本州各地の池沼底に汎生する多年生草本。白色の匍枝を泥中に引き、これに小刺状の突起があり、各節から鬚根を生じ、葉を叢生する。冬芽は匍枝の先に生じ長さ1.5cm許、突起があって筍状を呈する。葉は線形、扁平で質薄く、鮮緑色、平行脈とこれを所々で結ぶ細小横脈があり、巾1-1.3cm、長さ40-50cm、縁辺に密に刺状の細歯牙があり、先端は急に鋭頭である。雌雄異株。雌花の花茎は著しく長く、螺旋形をなし、花は水面に浮上して開き、3萼片と2裂する3個の花柱、及び狭長な下位子房がある。雄花は短柄ある膜質帯内の中軸に多数生じ、開花直前に、軸から離れて水面に浮上し、反曲した3萼片及び2個の雄蕊がある。

おおしまはいねず

*Juniperus conferta Parlatores*  
*var. maritima Wils.*

海岸性のハイネズの一型であって、葉の先端に鋭刺がないために掴んでも痛くない。軽微な形質ではあるが、伊豆大島を中心とした附近海岸に自生する処をみると、地理的変異とも考えられる。その点で興味があるのは、リュウキュウハイネズ(*J. luchuensis Ko-idsz.*)の存在で、これは奄美大島を中心とした沖縄列島に産するが、葉の尖り少なく九州のハイネズに対してオオシマハイネズと平行現象を呈する。なお淡黄緑色で蒼緑白色でない点を除けば同一変種とみても差支えはない。

ほもの科



第 3852 図

ほもの科



第 3853 図

ほんごうそう科



第 3854 図



第 3855 図

とちかがみ科

とちかがみ科



第 3856 図

ひのき科

